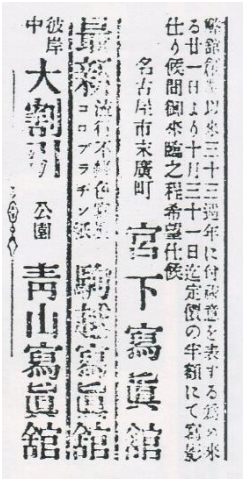
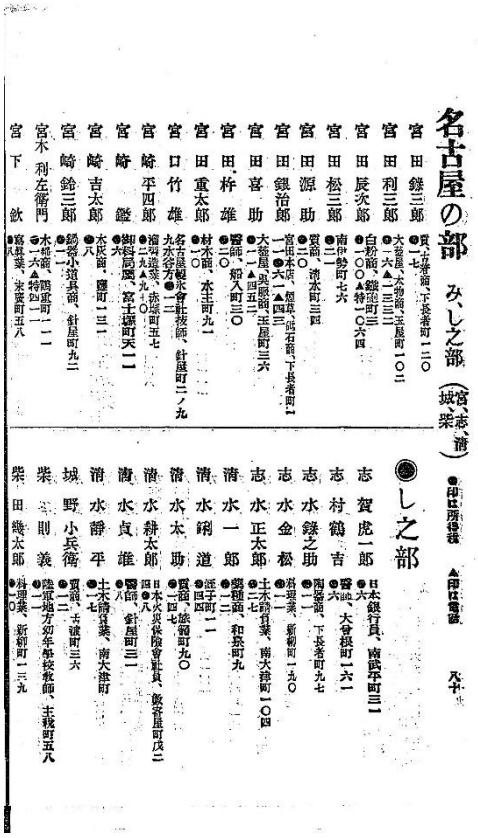
幕末明治の写真師列伝　第百四十四回　宮下欽　その六十二


弊舘創業以来三十三週年に付祝意を表する為め來る廿一日より十月三十一日迄定價の半額にて寫影仕り候間御來臨之程希望仕候
名古屋市末廣町　宮下寫眞舘
彼岸中　大割引
公園　青山寫眞舘

「弊舘創業以来三十三週年に付祝意を表する為め來る廿一日より十月三十一日迄定價の半額にて寫影仕り候間御來臨之程希望仕候
　　名古屋市末廣町　宮下寫眞舘」

明治36年（1903）9月20日『新愛知新聞』広告。これでは宮下写真館の住所は、「名古屋市末廣町」とある。また、「弊舘創業以来三十三週年」とあることから、これを信じれば宮下写真館の創業は明治3年（1870）頃になるが、それはありえない。


名古屋の部　みしの部（宮、志、清、城、柴）
●印は所得稅　▲印は電話
宮田鎌三郎　貿、古着商、下長者町一二〇
●一七
宮田利三郎　大織屋、大物商、玉屋町一〇二
●六▲一三三
宮田辰次郎　白粉商、鐵砲町三
●一〇〇▲特一〇六四
宮田松三郎　南伊勢町七六
●二一
宮田源助　貿商、清水町三四
●三〇
宮田銀治郎　宮田本店、煙草、紙石商、下長者町一
●六二▲四三
宮田喜助　大織屋、呉服商、玉屋町三六
●一▲四五三
宮田梓雄　貿師、船入町三〇
●三〇
宮田重太郎　材木商、本主町九一
●一〇
宮口竹雄　名古屋觀光會社技師、針屋町二ノ九
●九六
宮崎平四郎　宿二九▲九一〇、赤塚町五七
●一〇
宮崎鑑　御料局廣、富士塚町天一一
●六
宮崎吉太郎　本民商、鹽町一三一
●八
宮崎鈴三郎　錫蒔小道具商、針屋町九二
●一一
宮木利左衛門　木綿織、鶴重町一一
●一六▲特四一一
宮下欽　寫眞業、末廣町五八
●八

●し之部
志賀虎一郎　日本銀行員、南鍛冶町三一
●六
志村鶴吉　貿商、大曾根町一六一
●六
志水錄之助　陶器商、下長者町九七
●一一
志水金松　岩現一業、新柳町一九〇
●一
志水正太郎　土木請負業、南大津町一〇四
●七
清水一郎　貿糸商、和泉町九
●二
清水剛道　逆子町一一
●四四
清水太助　貿商、旅籠町九〇
●一四七
清水耕太郎　日本火災保險會社員、飯倉屋町戊二
●四
鹽水良雄　貿師、針屋町三一
●八
清水靜平　土木請負業、南大津町
●一七
城野小兵衛　貿商、五號町三六
●一二
柴田則義　陸軍地方幼年學校教師、主殿町五八
●一一▲特四一一
柴田幾太郎　外理業、新柳町一三九
●一〇

交詢社編『日本紳士録 第9版』（交詢社、明治36年）では、宮下欽の住所は、「寫眞業　末廣町五八」とある。所得税は八とある。

明治37年（1904）12月7日、宮下欽は隠居する。これより長男の宮下守雄（二代目・鈴木真一の門下）が戸主となり、宮下写真館の二代目となる。

（森重和雄）